

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 13 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

そして、彼は海べの砂の上に立った。(黙示録 12:18)

また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。

その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。(黙示録 13:1)

ヨハネは海辺に立っていて、獣が海から上って来るのを見ます。

この獣は反キリストです。

いつも言っていることなので、もう皆さんご存知かと思いますが、“反キリスト”とは、“キリストに代わる者”という意味です。

だからヨハネ牧師は、ヨハネの手紙第 1 でこう書いています。

今や多くの反キリストが現れています。(1ヨハネ 2:18)

ここの反キリストは、後に出て来る反キリストのことではなく、獣のようなことを行う者が多く出現して、あなたや私の気をイエスから逸らし、イエスに代わってその位置を占めようとする、という意味です。

しかし 1 節の獣は、後に出て来る反キリスト、終わりの時に登場する者です。

サタン・反キリスト・偽預言者という汚れた三位一体、悪魔の三位一体の第 2 位格で、父・御子・聖霊の聖なる三位一体に対抗しようと登場するのです。

この獣が、海から上って来ることに注目して下さい。

聖書を学ぶ人は覚えておきましょう。

聖書預言に於いて、「海」は常に「異邦人国家」を表します。

逆に、「地」はいつも「イスラエル国家」

なので、反キリストは間違いなく異邦人、少なくとも異邦人国家出身であると思います。

可能性が高いのは、外国に住むユダヤ系ヨーロッパ人のような人。

ダニエル書の中に、それを裏付ける箇所があります。

反キリストは、海である異邦人国家、ヨーロッパ連合の 10 か国の中から出てきますが、人種としては恐らくユダヤ人。

断定はできませんが、可能性は非常に高いです。

初めての人のために言うと、世界は基本的にユダヤ人と異邦人の二つに分けられます。

ユダヤ人以外は全て異邦人。

しかし今は、ユダヤ人でも異邦人でもない第 3 のグループがあります。

それが、“教会”

“元ユダヤ人”と”元異邦人”の集まりです。

反キリストは 7 つの頭を持って登場します。

黙示録 17 章に、更に詳しく書いてありますが、

七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。(黙示録 17:9)

7 つの山は、ローマの 7 つの山のこと。

つまり、反キリストが海から上って来た事により、異邦人国家であるヨーロッパの国の出身という事が分かります。

彼は 7 つの角を持ち、明らかにその拠点、少なくとも初めの内はローマにあり、更に、その角には 10 の冠がある。

10 の冠、7 つの頭をもつ獣。

ここで描写されているのは、とんでもない怪物で、実際そうなのでしょう。

繰り返しますが、旧ローマ帝国のヨーロッパ、異邦人国家出身で、人種的には恐らくユダヤ人。

7 つの頭は、17 章によると 7 つの山で、歴史上も今でもそれはローマ。

そして、頭には神を汚す名がある。

反逆的で神を汚す者、見るからに、人の姿をした悪魔です。

反キリストが 10 か国から出て来るという見方は、ダニエル書 2 章と 7 章にはっきり書かれていますが、私は、現在復活してきた旧ローマ帝国のヨーロッパ諸国から出て来ると思っています。

今 (*1997 年)、ヨーロッパ諸国は融合し始めていますね。

ダニエルは、反キリストを、“10 本の角の間から出て来た 1 本の小さな角”と呼んでいます。この 10 本の角は 10 の国を表しています。

その間から、もう一本の小さな角が出て来たが、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。(ダニエル書 7:8)

ある人物が現れた時、このことが、彼が反キリストであるという、1 つのヒントになるでしょう。

そして、彼がそうであるならば、ダニエル書によると、その人物は政治指導者となり、権力を握ると、初めに 3 か国の支配権を握り、10 か国連合から 3 か国が抜き取られます。

彼は、これらの国々を従わせ、支配し、コントロールし、統治します。

だから黙示録 13:1 でも、7つの頭に 10の冠と書いてあるのです。
面白いですね。

「7つの頭」には二つの意味があって、一つは黙示録 17章の「7つの山の都」
もう一つは 10の頭の内の残った 7つ。
3つは制覇され、引き抜かれたから。
だから「10の頭の獣」ではないのです。
ダニエル書の預言を学んでいる時に、ここで各ピースがつながっていきます。

ローマ帝国は、公式には西暦 476年に結末を迎えたことになっています。
その後、ビザンティン帝国他、幾つかに分かれましたが、偉大なるローマ大帝国は西暦 476年に終わりました。
以後、多くの人物がこれを復活させようとしてしましたが、それはいつしかジョークにもなって、小さな子供たちが歌っています。
「ハンプティー ダンプティーは壁に座り、ハンプティー ダンプティーは見事に落ちた。王様も騎兵も誰も、ハンプティー ダンプティーを元に戻せなかった。」
この子守唄は、ローマ帝国の事です。
帝国が崩壊し、様々な王や騎兵が次々に現れては、ハンプティー ダンプティーを元に戻そうとしたけれど、できませんでした。
反キリストが来るまでは。
反キリストが、旧ローマ帝国に再び栄光を与えるのです。

今日は詳しく話している時間はありませんが、ダニエル書 2章、7章には、それぞれ幻が書かれています。
一つは像、もう一つは怪物。
それが、この二つの章のメッセージです。
2章の像は、頭は純金、胸と両腕は銀、腹と腿は青銅、脛は鉄、そして鉄の足から出ているのは鉄と粘土が混ざり合った 10本の足指。
金の頭は、バビロン帝国。
ダニエルが書を記している時代に、権力を握っていた帝国です。
続いて銀の 2本の腕は、メディアとペルシャ。
それから青銅の腹は、ダニエル書にある通り、アレクサンダー大王に率いられたギリシャ。
そして、鉄の脛、ローマ帝国が彼らを征服しました。
その後ローマ帝国は東と西に分裂したので、2本の脛、足です。
そこから出ている 10本の足指は、ローマ帝国の再建を示しています。

「い～や！それならフランスやナポレオン帝国はどうなるんだ？」
「ドイツやヒトラー、その他の帝国はどうなんだ？」

ちょっと待ってください。

私たちが学んでいる聖書預言の全ては、神の時間で動いていて、その基準はイスラエル国なのです。だから、ひとたびイスラエルが離散し、国が破壊されると、神の時計は止まります。

イスラエル国家が消滅したのは、ローマ帝国の時代です。

西暦 70 年にイスラエル国は、国ではなくなりました。

しかし、1948 年、何が起こりましたか？

イスラエル国再建です。

ですから、聖書預言に関しては、1948 年のイスラエル再建前におこった、他の全ての帝国と言われるものや歴史上の動きは含まれないのです。

その同じ年 1948 年に、ヨーロッパ連合の種が蒔かれました。

当初は西欧同盟と呼ばれ、「ローマクラブ」と名付けられました。

1948 年、イスラエルが再び国家となった同じ年に、彼らはイタリア・ローマに集結し、「ローマクラブ」成立を発表。

その名は「ビッグ 10」

旧ローマ帝国から 10 か国が集結したのです。

「でもジョン、ヨーロッパ連合はもっと増えて、今は（*1997 年）15 か国あるよ！」

その通り。

「じゃあ、これからどうなるんだ？」

知りませんよ！

そのまま注目していれば分かります。

もっと増えてから、急激な再構築や国同士が戦い始めるなどの動きが出て、数が減るでしょう。

だから、これらは鉄と粘土の混合物なのです。

旧ローマ帝国のような鉄の強さは、彼らにはありません。

とにかく、ニュースをよく注意していて下さい。

そうすれば、このヨーロッパ連合が拡大して、それから縮小し、最終的には 10 本の指に納まるのを見るでしょう。

神が、ダニエル書 2 章と黙示録 13 章で、そうなるかと語っておられるのだから、そうなるのです。

10 本の足指、10 本の角。

しかし角の 3 本は、反キリストによって抜き取られるから、この時点では角は 7 本しかありません。

または 7 つの頭。

すなわち 7 か国になります。

ここで、反キリストの政治的な性質が見えてきますね。

ダニエル書 7:8 には、反キリストについて“小さな角”と書かれています。

私がその角を注意して見ていると、その間から、もう一本の小さな角が出て来たが、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。（ダニエル書 7:8）

これは、小さい角である反キリストが、3 か国を制覇するという事です。

私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようにであった。

(黙示録 13:2)

繰り返しますが、これもダニエル書に出て来る描写と同じです。

と言っても、2章ではありません。

2章は偉大な栄光に輝く像でした。

像は、見て来た通り偉大な帝国で、それは、政治に対する人間の考え方、歴史に対する見方です。

しかしダニエル書7章では、神がご自身の視点を表していて、それは輝かしい像とは異なり、怪獣のような獣の数々。

それと同じ獣がここで登場します。

ただ、順番に注意してください。

ダニエル書7章では、ここと順番が逆になっています。

ダニエル書7章では、まず獅子が来ます。

これはバビロン。

今までもこれからも獅子はバビロンのシンボルです。

そして、熊。

これはメディアとペルシャのシンボル。

それから、豹。

これはギリシャ。

最後の第4の獣は、名前もわからないほど恐ろしい。

ではなぜ順番が逆なのでしょう。

それは、ダニエルは未来を見ていて、ヨハネは過去を振り返っているからです。

これらの帝国は、ヨハネが黙示録13章を書いた時点では、もう既に起こってしまった後でした。

だから彼は、反対側から見ているのです。

それで、バビロンである獅子、メディアとペルシャの、これは、片方の足でもう片方を踏みつけている熊、そして、タイガーはウッズで、これら全てが登場。

ごめんなさい。

反キリストは竜によって、今までに表舞台に登場した全ての獣的帝国の支配者の、典型的な人物になりました。

人は、これらの帝国を非常に偉大だと考えますが、神は、これらは獣だと言います。

獅子や豹、憎むべき怪物のようだと。

人は政治家を、堂々として素晴らしいと言って、そこに希望を置きますが、人間が治める政治は、神の目から見ると獣のようだと。

人の目には、ダニエル書2章のような輝かしいイメージだけど、神からすると、気が狂った動物のようだと。

政界で起こっていることを見るにつけ、神は正しいと実感しますね。

めちゃくちゃです。

さて、ヨハネは続けます。

竜はこの獣（反キリスト）に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。（黙示録 13:2）

反キリストは、ヨーロッパを拠点に権力を得、10か国による旧ローマ帝国を再建します。

これはまだ完成していませんが、現在整いつつあるのが見えます。

その時、この反キリスト、人気者でパワフルで、いい感じの素晴らしい人物は、「平和計画」という彼の輝かしい政策によって、世界中の心をわしづかみにします。

その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。

そこで、全地は驚いて、その獣に従い、（黙示録 13:3）

そして、竜（サタン）を拜んだ。（黙示録 13:4）

獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拜んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。（黙示録 13:4）

患難時代のこの時期、全権力を携えて重要な地位に就く反キリストは、撃たれて傷を負い殺されます。暗殺される。

彼は確かに死にます。

ゼカリヤが書いていることを見ましょう。

ああ。羊の群れを見捨てる、能なしの牧者。（ゼカリヤ書 11:17）

能なしの牧者は反キリストの別名。

剣がその腕とその右の目を打ち、その腕はなえ、その右の目は視力が衰える。

（ゼカリヤ書 11:17）

能なしの牧者である反キリストは、暗殺の企みによって右目の視力を失い、右腕も麻痺します。

これらの出来事も、残された人たちには、全てパズルのピースになるでしょう。

ここでもう一度、黙示録 17:8 を見ます。

17章は13章を更に詳しくしていますから。

獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。

そして彼は、ついには滅びます。（黙示録 17:8）

反キリストが実際に殺される可能性は高いです。

中には、彼は本当は死んでない。

死んだように見えるが、実際は死んではいないと信じている人も多いようですが、私の考えでは、反キリストは本当に死んで、確かに地獄へ行くと思います。

彼の死について、なぜ意見が分かれるのかというと、言語的な問題で、ギリシャ語の表現が、「死んだような」とも、「死」とも訳せるのです。

とにかく、反キリストは致命的な傷を負い、黙示録 17章によると地獄に行きます。

そして再び地上に戻ってくる時に、正真正銘、サタンが人間の形を取っているのでしょう。

丁度、イエス・キリストが天から来る時に神であるように。

イエスは、「わたしを見たものは、父を見たのです」（ヨハネ 14:7）と言いました。

そのように、反キリストも、まさに竜であるサタンが人間として来るのでしょう。

これについては17章で詳しく話しますが、とても興味深い内容です。

本当に死ぬにしても、右目右腕の傷によって死んだように見えたにしても、いずれにしても、全世界は驚くことを目撃します。

彼の致命的な傷が直るのです。

反キリストは、キリストが実際に行なったことを真似るので、キリストが蘇ったように蘇ります。

これが、まやかしだとしても、本当にサタンが反キリストの体を使って、人間として来たとしても、サタンはその体を繰り返します。

断定はできませんが、どちらであったとしても、反キリストは暗殺されるが、突然命が蘇り、それで全世界は驚きます。

それはそうでしょう。

つづく。

わたしは主、これがわたしの名。

わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。

先の事は、見よ、すでに起こった。

新しい事を、わたしは告げよう。

それが起こる前に、あなたがたに聞かせよう。(イザヤ書 42:8 - 9)